

主要事業評価シート(第2次実施計画/R1・2・3年度)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	上下水道部	
	17011	水道生活基盤整備事業	課名	上水道課 上水道工務G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上	財務科目	会計	11:水道公営企業会計
	基本施策	03:上下水道の充実		款	資1:資本的支出
	施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給		項	01:建設改良費
戦略プロジェクト	-	目		01:施設費	
事業予定期間	H 29 ~ R 3 年度	主な根拠法令要綱等	水道法		

② 目的・概要	対象	川崎町、住山町の加圧エリアの住民
	目的	川崎町北部地区、住山町西部地区の水量・水圧低下を解消するため、加圧ポンプ室の機能強化を図り、安定した水道水の供給を図る。
概要	加圧ポンプの容量不足が発生し、施設の老朽化が著しい「川崎加圧ポンプ室」及び「住山加圧ポンプ室」について、隣地土地を取得し、新たに施設を建設する。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	○川崎加圧ポンプ室 ・外構工事 ・機械・電気設備工事 ○住山加圧ポンプ室 ・登記事務 ・詳細設計 ・地質調査 ・用地買収	○住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事、外構工事 ・建築工事監理 ・機械・電気設備工事	○住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事、外構工事 ・建築工事監理 ・機械・電気設備工事	
	年度実績	○川崎加圧ポンプ室 ・建設工事(その1)(土木・建築)(H30繰越) ・建築工事監理業務委託(H30)繰越 ・外構工事 ・機械・電気設備工事 ○住山加圧ポンプ室 ・登記事務 ・詳細設計 ・地質調査 ・用地買収	○住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事(外構工事含む) 【令和3年度へ繰越】 ・建築工事監理 【令和3年度へ繰越】 ・機械・電気設備工事 【令和3年度へ繰越】	○住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事、外構工事 ・建築工事監理 ・機械・電気設備工事	
事業費	計画額	事業費	155,100千円	138,600千円	130,700千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	155,100千円	138,600千円	130,700千円	
	予算額	事業費	195,165千円	57,290千円	184,563千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	195,165千円	57,290千円	184,563千円	
決算額	事業費 ①	184,839千円	23,590千円	162,984千円	
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
一般財源	184,839千円	23,590千円	162,984千円		
人件費	総人件費 ②	6,044千円	3,136千円	3,161千円	
	一般職員	6,044千円	3,136千円	3,161千円	
	所要人員	0.77	0.40	0.40	
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(①+②)		190,883千円	26,726千円	166,145千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度	
④ 指標	①	名称 川崎地区加圧ポンプ室改良工事整備率 実施済み事業費/総事業費	活動	計画値	100		
				実績値	100		
				単位	%		
	②	名称 住山地区加圧ポンプ室改良工事整備率 実施済み事業費/総事業費	活動	計画値	12	56	100
				実績値	9	12	100
				単位	%	%	%
	③	名称 水圧不足となるエリア内の給水水圧 各加圧ポンプ室完成後における使用量ピーク時間帯の水圧 状況(令和元年度は川崎地区、令和3年度は住山地区)	成果	計画値	0.2		0.2
				実績値	0.2		0.2
				単位	Mpa以上		Mpa以上

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 住宅開発等により給水需要が増加した場合は、水量・水圧低下が発生することが懸念されることから、水道管の増径工事等の検討を行う必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 給水需要の動向を観察しながら、住山加圧ポンプ室の工事進捗を行った。また、計画通りに工事を完成させ、早期に新施設へ切替作業を行うことで施設能力の向上を図り、水量・水圧低下を解消し安定した水道水の供給を行った。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 住山加圧ポンプ室を令和3年12月に完成させ、新施設への切替作業を令和4年1月に実施を行い計画どおり年度内に完了した。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 住山西部地区については、機能強化を図ったことにより、最低水圧が目標とする0.2MPaを上回った。また、水圧変動幅が非常に大きく安定していなかったが、水圧変動も小さく緩和されたことにより、安定した水道水の供給を図ることができた。	A 十分な成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 住宅開発等により給水需要の増加が見込まれる場合、水量・水圧低下が発生することが懸念される。	次期実施計画への方向性 【その他の場合、その内容を記載】 能褒野町地内において、住宅開発の増加等による水圧・水量の低下が見受けられることから配水管改良(増径)工事及びループ化の工事を行う。
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 給水需要の動向を観察し、必要となる水道管の増径工事やループ化の検討を行う。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 水量・水圧低下を解消し、住民に対し水道水の安定供給が図れる。	
	対応時期	給水需要が増加してきた時	
		<input type="checkbox"/> 継続(拡大) <input type="checkbox"/> 継続(現状維持) <input type="checkbox"/> 継続(縮小) <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

【1次評価者】	上下水道部 上水道課 上水道工務グループリーダー 高沢 直
【最終評価者】	上下水道部 上水道課長 鳥喰 教義

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	B	A	B	A
	成果	A	B	A	B	A

■令和3年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		184,563 千円
内訳	令和2年度からの繰越額	81,310 千円
	令和3年度の最終予算額	103,253 千円
	令和4年度への繰越額	千円